

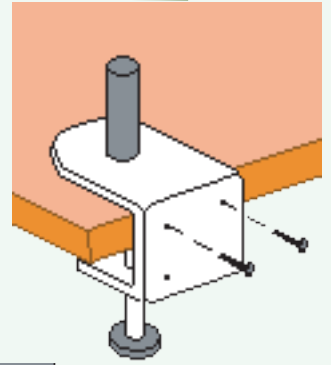
プロの集団である証明のひとつ
万全な施工方法を提案します!!

Live Creator®

ディスプレイ用アームは、液晶テレビやパソコン用モニタをいかに快適に見るか、との欲求を満たすという側面だけでなく、地震対策の側面からも普及してまいりました。そこで、より地震対策を万全なものにするということで、以下ご提案いたします。

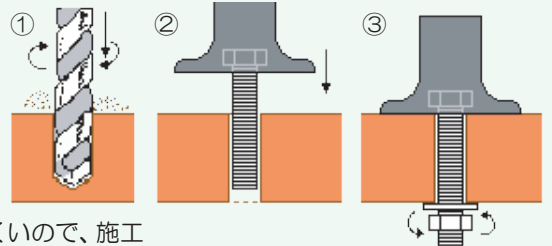
C型クランプ固定の場合

弊社のC型クランプには裏面にφ8.4の穴が4個用意しています。C型クランプをノブで締め、更に頭の直径が9mm以上の丸木ネジ(M4.8以上)などで裏面の穴を通して、棚などに固定すると、地震対策は一層万全なものとなります(右上図を参照)。ただし、このご提案は取りつける棚などが木製で、中が空洞でない場合に限りです。



グロメット固定の場合

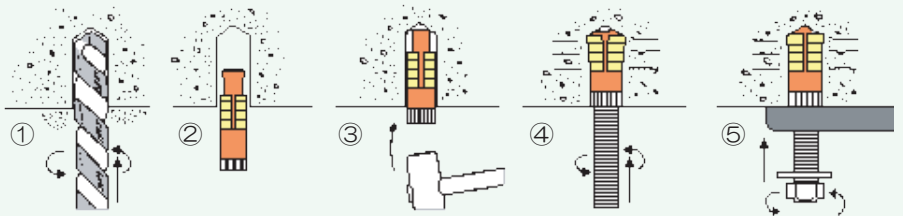
弊社のグロメットには直径9.5mmのボルト(いわゆる3分ネジ)を内蔵させています。棚などに固定する場合、直径10mm程度のドリルで棚などに穴を開け(右図①)、グロメットのボルトを通し(右図②)、ナット(14mm)をスパナかレンチで締めます(右図③)。取りつける棚などの中が空洞などの場合は、補強が必要です。



ブラケット壁面固定・フランジ天井面固定の場合

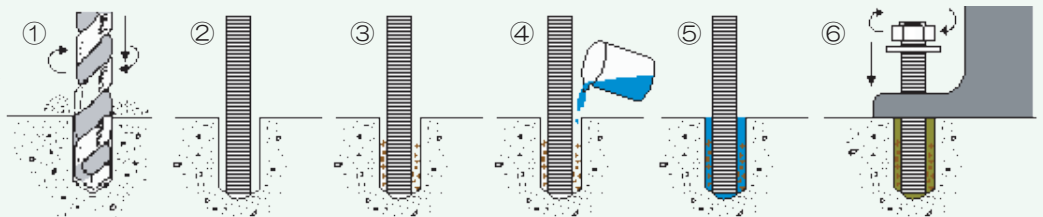
壁面や天井面に固定する場合は、壁面や天井面そのものの強度が判断しにくいので、施工業者さまによる取り付けを推奨いたします。

右の図は施工業者さまによるコンクリートスラブにアンカーボルトを直接打設する「金属拡張アンカー」と呼ばれる例です。拡張部をもつ金属性の部材を所定の深さまで挿入、打撃または回転締めなどで拡張部を開かせ、コンクリート孔壁に食い込ませ、機械的に固着させます。



フランジ床面直接固定の場合

床面への固定は下に向かっての作業ということで、経験の少ない方でもかなり本格的な地震対策が可能です。床面も「金属拡張アンカー」方式は可能ですが、ここではエポキシ樹脂による固着の例をご案内します。

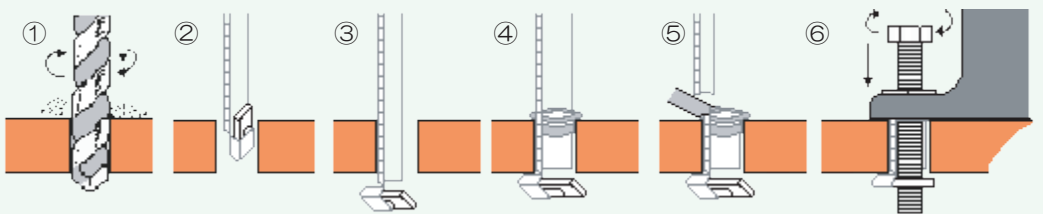


弊社のマルチタイプ・ポール用のフランジの場合、M10(直径10mm)のアンカーボルトを最低4本用意します。建築金物店にございます。右上図では直線状のアンカーボルトをイメージしていますが、抜けにくいJ状のアンカーボルトなどがあります。ドリルでアンカーボルトを埋め込む空間を作ります(上図①)。J状のアンカーボルトの場合、大きく切り開く必要があります。切削した穴にアンカーボルトを入れ(上図②)、つぎに穴の空間の8割程度乾燥した大きめの砂粒などを入れます(上図③)。主剤と硬化剤を十分に攪拌したアンカーボルト埋め込み接着用エポキシ樹脂を注入(上図④)、アンカーボルトが垂直に保たれるようにした状態で硬化を(25°Cでおおよそ24時間)待ちます(上図⑤)。硬化後フランジを固定します(上図⑥)。

床面下が空洞の場合のフランジの固定

歯科医院さまなどの場合、水道管・下水道管・電線・LANケーブルなどを張り巡らせるため、床が二重になっていて、直接の床の下は空洞というケースがあります。

この空洞部分に手を入れスパナとかレンチとかの工具を使うことができれば、前述のグロメット固定の場合の要領でフランジを固定できます。問題は、床下の空洞に手はおろか工具を入れることもできない場合です。弊社はこの場合でも簡単に作業できる施工方法を用意いたしました。



ドリルで床にφ14の穴をフランジの穴位置に従って4つ開けます(上図①)。床の厚さが30mm以下の木部の場合、あて板を用意し、床の厚さが30mm以上になるようしてください。弊社の用意するM8のガイドつきナット・メカナットを、プラスチック・ガイド部を持ってこの穴に通し(上図②)、通ったら釣りの要領でナット部を床下裏面に引っ掛け(上図③)、プラスチック・ガイド部の先端についたワッシャ部をプラスチック・ガイド部に沿って下げ、ナット部とワッシャ部で床板をはさみます(上図④)。プラスチック・ガイド部の不要部分をカッターで切り落とします(上図⑤)。M8のボルトでフランジを固定します(上図⑥)。このガイドつきナット・メカナットのご要望につきましては、お気軽にメール(info@livecreator.co.jp)をお送りください。